

講義名	比較文化論			授業形態	
担当教員	植野 加代子	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
				ナンバリング・コード	LBA117
主題と概要					
比較文化論では、日本文化と異文化を比較するだけでなく、文化が形成されていった背景や意味を考えることを主題とする。 この講義では、東南アジアや日本の庶民の生活文化を、文献資料だけではなくフィールドワーク・写真・映像資料等を用いて、各国の文化や習慣など伝統的な生活文化を取り上げて紹介する。その過程で、東南アジアと日本の生活文化の相違点や類似点に目を向け、文化の意味を探りながら、社会・宗教・地域性などにも着目し、講義を進める。					
到達目標					
東南アジア各地の事例をとおして、文化の多様性と普遍性について知り、当たり前だと思っていた自国の文化に対する新たな見方ができるようになる。さらに、異文化を知ることによって思考力や想像力の幅を広げ、自由な発想や知識を生みだすことを身につけることができるようになる。					
提出課題					
感想文や課題などを毎回記入し、小レポートとして提出してもらう。小レポートの提出課題は講義ごとに伝える。 小レポートとは別に、講義に関連した事柄について、興味のある国と日本を比較する学期末レポートの提出を求める。学期末レポート課題などの詳細については、別途、講義中の説明ならびに「キャンパスクロス」を通じて指示する。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法					
毎回の講義中に書いてもらう小レポートの内容は、提出後に講義内で、比較文化論の事例の一つとして紹介する。					
評価の基準					
評価は、以下の2点を総合しておこなう。 平常点として、毎回(15回分)の小レポート（60点） 学期末レポート（40点） 評価の基準は、第1回目の講義時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。					
履修にあたっての注意・助言他					
講義中に学んだことを、実際の日常生活の中でも、どのような場面があるかを考えてみること。 講義中、私語などをし、他人の学習の妨害をしないこと。そのような、受講態度が好ましくない学生には退出を求めることがある。					
教科書					
.使用しない。					
参考図書					
.なし。					

その他		
〔資料〕 各回、プリント資料を配布する。 〔参考文献〕 講義中に適宜紹介する。		
授業計画		
講義の進め方については、第1回の講義時に詳細を説明する。 第1回 比較文化論とは 異文化理解 予習内容：シラバスを確認する（90分）。 復習内容：講義内容の要点などを整理し、各自の身近な事例を考えたり、小レポートの作成や提出をする（150分）。 第2回 タイの文化 仏教遺跡と世界遺産 予習内容：授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ選んでおく（90分）。 復習内容：講義内容の要点などを整理し、各自の身近な事例を考えたり、小レポートの作成や提出をする（150分）。 第3回 タイの文化 仏教寺院と人々の暮らし 予習内容：授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ選んでおく（90分）。 復習内容：講義内容の要点などを整理し、各自の身近な事例を考えたり、小レポートの作成や提出をする（150分）。 第4回 タイの文化 市場と水上マーケット 予習内容：授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ選んでおく（90分）。 復習内容：講義内容の要点などを整理し、各自の身近な事例を考えたり、小レポートの作成や提出をする（150分）。 第5回 タイの文化 少数民族の生活 予習内容：授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ選んでおく（90分）。 復習内容：講義内容の要点などを整理し、各自の身近な事例を考えたり、小レポートの作成や提出をする（150分）。 第6回 インドネシアの文化 信仰 予習内容：授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ選んでおく（90分）。 復習内容：講義内容の要点などを整理し、各自の身近な事例を考えたり、小レポートの作成や提出をする（150分）。 第7回 インドネシアの文化 路上達舞と女性 予習内容：授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ選んでおく（90分）。 復習内容：講義内容の要点などを整理し、各自の身近な事例を考えたり、小レポートの作成や提出をする（150分）。 第8回 インドネシアの文化 婚姻 予習内容：授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ選んでおく（90分）。 復習内容：講義内容の要点などを整理し、各自の身近な事例を考えたり、小レポートの作成や提出をする（150分）。 第9回 カンボジアの文化 水上生活の暮らし 予習内容：授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ選んでおく（90分）。 復習内容：講義内容の要点などを整理し、各自の身近な事例を考えたり、小レポートの作成や提出をする（150分）。 第10回 ラオスの文化 年中行事1 予習内容：授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ選んでおく（90分）。 復習内容：講義内容の要点などを整理し、各自の身近な事例を考えたり、小レポートの作成や提出をする（150分）。 第11回 ラオスの文化 年中行事2 予習内容：授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ選んでおく（90分）。 復習内容：講義内容の要点などを整理し、各自の身近な事例を考えたり、小レポートの作成や提出をする（150分）。 第12回 ラオスの文化 少数民族の生活 予習内容：授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ選んでおく（90分）。 復習内容：講義内容の要点などを整理し、各自の身近な事例を考えたり、小レポートの作成や提出をする（150分）。 第13回 東南アジアの文化 棚田の利用 予習内容：授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ選んでおく（90分）。 復習内容：講義内容の要点などを整理し、各自の身近な事例を考えたり、小レポートの作成や提出をする（150分）。 第14回 東南アジアの文化 伝統芸能 予習内容：授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ選んでおく（90分）。 復習内容：講義内容の要点などを整理し、各自の身近な事例を考えたり、小レポートの作成や提出をする（150分）。 第15回 東南アジアの文化 南蛮貿易 予習内容：授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ選んでおく（90分）。 復習内容：講義内容の要点などを整理し、各自の身近な事例を考えたり、小レポートの作成や提出をする（150分）。		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
諸外国の習慣や文化を知ることにより、新しい視点や豊かな発想によって、新たな価値を生み出すことができる。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
この講義は、板書・プリント資料を用いた形式で進める。また、毎回の授業において、受講生自らの感想や考えなどを用紙に記入する時間を設ける。		
実務経験の有無及び活用		
実務経験あり。東南アジアを中心とする諸外国及び日本において、比較文化論に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、講義を行う。		
備考		
講義の進め方については、第1回の講義時に詳細を説明する。 この講義では、世界の生活習慣がすべてテーマとして扱える。そのため、日々の生活をなげなく過ごすのではなく、日頃から生活習慣・文化・行事などに関心や興味を持って生活するように心がけてもらいたい。受講生1人1人の日常生活もすべて資料となるため、各国の特色を皆さんと一緒に考えていきたい。		